

23

渥美縫製株式会社

裁断工程を革新化することにより高級路線への転換する取組み



会社概要

- 社 名：渥美縫製株式会社
- 代 表 者 名：代表取締役 渥美 浩利
- 所 在 地：〒431-0102
浜松市中央区雄踏町宇布見9229-2
- 取 材 地：同所在地
- 設 立 年 月：昭和51年6月
- 業 種：繊維工業
- 資 本 金：10,000千円
- T E L：053-592-1565
- U R L：https://fc-atsumi.jp



取り組みの経緯



代表取締役 渥美 浩利氏

自動裁断機による 裁断工程の自動化を目指す

同社は、デニムや皮以外のフルアイテムの縫製を行っている。ライン生産ではなく、1点1点手作業でオーダー通りに仕上げる技術を持ち、プレタポルテ（高級既製服）ブランドからの一点物のパターンオーダーの縫製が主な業務となっている。

近年、一点物のオーダーが増加している。特にショーに出品する前のサンプルや試作段階の縫製の依頼が増加しており、これに伴い納期短縮の要請も急増している。ショー向けの縫製品はデザインの盗用を防ぐため、ショーの直前に発注されるため、納期が2週間と超短納期となっている。加えて、1点1点手作業で縫製しているため、短納期への対応は非常に困難な状況となっていた。

そこで、自動裁断機を導入し、裁断作業の自動化・効率化を目指した。また、量産品ではなく一点物に特化させることで、顧客の依頼に対し柔軟に対応すべく体制の確立を図った。

具体的な事業内容

近年プレタポルテ（高級既製服）ブランドから同社への縫製依頼が増加している。そこで自動裁断機を導入し、同社のCAD/CAMと連動させることで革新的裁断工程を構築した。その結果短納期化（4時間/着）を実現すると共にプレタポルテブランド向け高品質製品を出荷する体制を整えることができたようになった。

取り組みの内容



導入した一枚切り自動裁断機

縫製技術を活かした 革新的裁断工程の構築

事業に取り組むにあたっての課題は、品質と納期であった。

品質では、一点物のため、柄の位置や切り替わり、縞のパターンなどが細かく指定されており、裁断時の確認が必要となっていた。

また、納期に関しては、超短納期要請に加え、数百ある裁断を型紙に合わせて手作業で行っているため、多くの時間を要していた。

こうした課題解決に向け、同社では、設備選定基準に合致した機械の選定を行い、同社の強みを活かすことにより、一点物サンプル縫製の受注体制の構築を目指した。導入した機械は、一枚切り自動裁断機 ECOPIA であり、専用にカスタマイズして試作を行った。その結果、同社のCAD/CAMと連動させることで、精密な裁断に対応できることが確認された。

結 果



縫製された製品

強みを活かした より柔軟な製造工程の確立

同設備の導入によって、切断作業の自動化が実現した。従来では、切断担当と裁縫担当を別に配置していたが、一連の工程を1人で担当することが可能になった。自動化によりリードタイムが短縮され、プレタポルテ向け作品について、これまで1着につき5時間かかっていたものが4時間となり、1時間の短縮が実現した。

また、同社では裁断する生地プロジェクターを使用して図面を投影し、機械がカメラで投影された生地を撮影し裁断を行っている。発注先との打ち合わせの際に、この撮影画像を共有することで、生地柄の切断に関して、より正確な情報共有が可能となっている。

渥美社長は「業界的に手作業が多く、なかなか自動化できる部分が少ないが、今回の導入を機に多くの製品に対応できるよう体制づくりをしていきたい」と語った。